

東京国立近代美術館は、学校と連携して**スクールプログラム**を行っています。**図画工作・美術**はもちろん、教科横断的に学校ごとの利用目的に合わせて、子どもたちが**探究的な鑑賞**を体験できることを目指しています。

たとえば、対話によって子どもたちの声を引き出す**ギャラリートーク**。子どもたちは本物の作品を前にして、自分の目によく観察し、さまざまなことを考え、それを話したり友達の意見を聞いたりします。ギャラリートークを行うガイドスタッフ(解説ボランティア)や教育担当の学芸員は、作品についての知識を教えるよりも、**子ども自身が造形的な見方・考え方を働かせ**、作品の特徴をつかみ取り、イメージを広げることを大切にしています。

こうした体験は、**学習指導要領**でも触れられている**主体的・対話的で深い学び**をもたらします。当館では、セルフガイドなどの教材も、子ども自身が発見し考える体験を念頭に置いて設計しています。ICT環境が充実した昨今、教室でも活用できる**オンライン教材**も用意しています。

鑑賞するのは、重要文化財を含む**所蔵作品**です。所蔵作品は、十分に作品研究がなされていることや、将来にわたって繰り返し見ることができることから、鑑賞教育に特に適しているといえるでしょう。作品や鑑賞方法の選択にあたっては、子どもたちの**発達の特性**や**学習のねらい**を考慮します。

スクールプログラムは固定的なものではありません。先生からの相談、アイデア、ご意見も歓迎します。子どもたちの様子をご報告いただけることも貴重です。私たちは先生方と常に連携をとり、美術館での体験をよりよいものにして考えています。



こんな作品を鑑賞します

スクールプログラムを行う所蔵作品展「MOMATコレクション」には、重要文化財18点を含む13,000点以上から選ばれた約200点が、4階から2階の3フロアにわたって展示されています。年に数回展示替えがあり、国内外の作家による絵画(日本画・洋画)、彫刻、版画、水彩・素描、写真、映像、工芸など美術の各分野にわたる様々な表現と出会うことができます。



このページの作品と「**#キーワード**」は、鑑賞素材BOXで詳しく紹介されています。
鑑賞素材BOX <https://box.artmuseums.go.jp/>



岸田劉生《道路と土手と堀(切通之写生)》
1915年 重要文化財

#構図 #色 #写実 #風景 #環境
#郷土 #時代 #文化遺産



上村松園《母子》
1934年 重要文化財

#構図 #色 #人物
#生活 #生命 #伝統
#時代 #ジェンダー
#文化遺産

パウル・クレー《花ひらく木をめぐる抽象》
1925年

#形 #色 #構図 #抽象 #諸外国
#生命 #自然 #理数 #音楽



高村光太郎《手》
1918年頃

#形 #人物 #象徴
#身体 #エネルギー
#アイデンティティ

